

神奈川県青少年指導員大会

中川地区 石坂 好美

第39回神奈川県青少年指導員大会が、「伸ばそう若い力、育てよう地域力～今、わたしたちは～」のテーマで11月12日（日）12時から川崎市高津市民館で行われました。オープニングセレモニーは、ダンス団体（アルファーレ川崎）による、川崎舞祭E-JUNC DANCEでした。

まず長きにわたって活動して下さった県下59名に感謝状が贈呈されて都筑区からは山田地区の小泉洋一さんが選ばれました。

休憩の後、知事から青少年指導員に対し、安全安心町づくり条例の制定や青少年保護者育成条例の改正等、

平成18年度 横浜市青少年指導員研修会

東山田地区 金城 正浩

9月24日（日）栄区栄公会堂にて、横浜市青少年指導員研修会が開催されました。研修会ではまず、「思春期を生きる中学生との関わりについて」をテーマとした基調講演が行われ、続いてSAKAEヤングフェスティバルの事業紹介が行われました。

SAKAEヤングフェスティバルとは、青少年の健全育成と地域の交流を深めるために、クリエーションや模擬店を中心としたフェスティバルで、栄区青少年指導員協議会が毎年3月に開催している事業です。会場では、主に中学生が中心となって、たこ焼きなどの模擬店や、ダーツなどのゲームコーナーが開かれ、またステージでは、プラスバンドや和太鼓、空手演舞などが上演され、地域の方々に大変好評を博していることです。

この事業が1991年に始まって以来、回を重ねるごとに参加者も増加し、栄区内の全公立中学校からスタッフ・舞台出演者として500人以上の中学生が参加す



テレビでニュースが流れるたびにいろんな事件がおきていることが分かります。自殺、事故、いじめ、家庭内暴力、殺人、ゴミの山、さまざまな出来事が毎日のようにおこっています。私の今26歳になる息子も昔いじめを受けました。どうすれば、世の中明るい未来が開けるのかみんなで考えたいと思います。
かちだ地区 古川 末子



このマークは、青少年に優しい環境を願ってヨコハマの青少年指導員が決めたものです。

第25号

都筑区青少年指導員連絡協議会

都筑区茅ヶ崎中央32-1
都筑区役所地域振興課内
045-948-2235

都筑青指だより



都筑青指だより

第12回 都筑区民まつり

佐江戸加賀原地区 会長 志田 政明



11月3日（祝）に恒例の「都筑区民まつり」が開催され、青少年指導員はセンター北会場で、ミニ動物園の運営協力と、うどん・そばの模擬店、竹コーナーを行いました。

私が担当した竹コーナーでは「竹ポックリ」を作り、子どもたちに遊んでもらいました。竹ポックリは竹の節の部分を上にして10~15cmに切った竹に縄を通しただけの簡単なもので、馬のヒヅメのように乗って歩きますが、竹馬より簡単に歩けることから、幼稚園から小学校低学年に入気があります。

“ぽっくり”とは漢字では『木履』と書きます。これは少女用の下駄の一種で、赤か黒のウルシが塗られているものに美しい布で作った緒をすげたもので、晴れ着の時に履くため普通の下駄より高く作られていて、これを履くと目の位置が高くなり、少し大人になった気分になるようです。また、底をくり抜いてあるので、ここに音が共鳴して独特の軽快な音（擬音としてポックリ）が出ることからこの名前がつけられましたが、中には鈴を仕込んだものもあるとのことです。

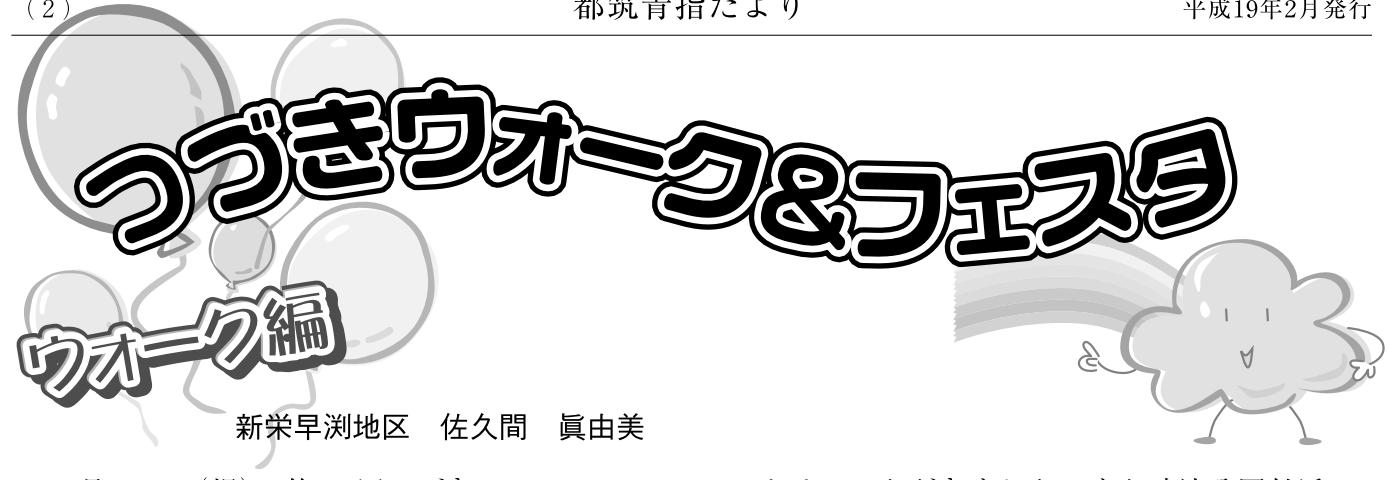
さて、この竹ポックリは孟宗竹で作りますが、この準備が大変で、区民まつりまで、竹林のある青少年指導員の協力も得て何十本も切り出し、会場まで運びます。

また、当日使う道具類も皆で持ち寄りました。特に今回は電動ノコギリが登場し、竹を切る人、ドリルで縄を通して穴を開ける人、縄を通して子どもに渡す人と分業化を図ったため、昨年よりは子どもたちを待たせずに作ることができました。

今回は途中で、ジャンケンで勝った子に好きなポックリを選ばせるゲームを取り入れました。その中で何度も負けても並んでいる子どもがいましたが、とうとう最後までジャンケンに勝てずに泣いてしまい、展示用の少し細いポックリを渡してようやく泣き止みました。

子どもたちは竹の節の部分で作ったポックリがなくなってしまい、節のない筒抜けの部分で作ったポックリでも喜び、ついには山のようにあった竹がなくなってしまいました。

毎年のことですが、子どもたちは普段はテレビゲーム等の体を使わない遊びが多くなっているように感じますが、本当に簡単な遊び道具でも子どもたちの人気は高く、こうして自然にあるもので遊んでくれたことを嬉しく思いました。



新栄早渕地区 佐久間 真由美

11月23日（祝）、第12回つづきウォーク&フェスタが開催されました。

ウォークでは各チェックポイントでスタンプを押してもらい、ゆっくり楽しみながら歩いていきます。当日の天気は雨天と予報されていましたが、曇り空のもと予定通り実施することが出来ました。コースには①茅ヶ崎公園、②葛ヶ谷公園、③都筑中央公園すきっぷ広場ゴールの5kmコースと、このコースを通過して④山崎公園、⑤徳生公園、⑥大塚・歳勝土遺跡公園、すきっぷ広場ゴールの12kmコースがあります。このウォークには、転勤して家族でこられた方も多く参加していました。

少し冷たい風も心地よく、赤や黄色に染められた緑道は、車の響きもしないほど静かで、都筑の街を川のせせらぎと共にゆっくりと時が流れていくのでした。葛ヶ谷公園チェックポイントでは、温かなコーンスープのもてなしに一息



フェスタ編

川和地区 東海 浩美

フェスタはセンター南のすきっぷ広場ステージでの演奏やパフォーマンスを中心に模擬店も開いて、ウォークに参加された方々を暖かく迎えました。

ステージでは前半は中学生による吹奏楽の演奏がありました。元気いっぱいの演奏に会場からはアンコールの声もかかり、嬉しそうに皆で力を合わせて演奏してくれました。

後半は高校生による「ダンス・バトントワリング」が披露されました。1、2年生が中心の子ども達は、開演より何時間も前に集合して衣装に着替えて、発表の時間まで場所をみつけて練習し、日頃の練習の成果を発表してくれました。ダンスはストーリー性を持たせた構成だったり、バトンの色々な廻し方を説明してくれたりと会場の人達にも解っていただけたのではないかと思います。会場で見ていた小さな女の子が一生懸命リズムに合わせて踊っていました。もしかすると何年後かには、このステージに立ってくれるかも知れませんね。また、大人の方からは「何であんなに体が動くんだろう?」とか「きれいだね」などの声がありました。

何人かの生徒さんに質問してみました。

Q：衣装が素敵ですがどうされたのですか？

A：皆でつくりました（女子生徒）

買ってきました（男子生徒）

お父さんのを借りました（男子生徒）

Q：練習は辛くないですか？

A：辛いときもありますが、でもダンスが好きだから頑張ります

Q：今日はどうでしたか？

A：ちょっと寒かったけど楽しめました

模擬店の中ではトン汁とわた菓子の販売がありました。

トン汁は前日に野菜を洗って切ったりして、当日は朝から大きな鍋で600食近く作りました。下ごしらえは大変な時間が掛かったそうです。青少年指導員による愛情たっぷりのトン汁は今年も完売しました。「エー！もう終わっちゃったんですか？」と言ってくださった方には大変申し訳ありませんでした。食べ終わった器をかたづけに来た子ども達が大きな声で「ごちそうさま、おいしかった」の声に、給仕をした青指からは、おもわず大きな笑みがこぼれ、「嬉しいですね、その声を聞くと疲れもなんのその。」

わた菓子は子ども会の役員の方が子ども達に楽しんでもらえるよう体験コーナーとして、大人にも子どもにも、大きなわた菓子を作っていました。その隣には救護の方も待機してくださっていたので安心でした。今年のフェスタは以上ですが皆様は楽しんでいただけたでしょうか。